■今月の特選句

2012 年 12 月号

じやんけんの鋏で切れぬ年の暮

氏家頼一

「切れぬのはひとのご縁に違いなし」「未払いの督促状はずたずたに」「じやんけんの鋏で切り出せ滑稽名句」。

コスモスの揺れほど饒舌にはなれず

越前春生

「コスモスは若い女性の一群か」「コスモスの揺れをお喋りだと見立て」「周囲にもコスモスみたいな奴の居る」「お喋りの中身昨日と同じこと」。

うるさ方黙らせてをりずわい蟹

柳　紅生

「喋るのを蟹に我慢のうるさ方」「うるさ方蟹たべ尽くし喋り出す」「饒舌の忘年会は蟹にせむ」「司会も幹事も喋らず済むよ」。

今一つお色気不足紅葉茶屋

三塚不二

「お色気の不足は紅葉茶屋の婆」「見回せば今年の紅葉色不足」「二種類の色の不足をひとつ句に」　「この一句一物仕立てか配合か」。

いつ死ぬの孫にきかれてゐる夜寒

小林英昭

「幼子や疑問のあればすぐ尋ね」「それだけは爺ちやんだつてわらない」「年とると人間必ず死ぬんだよ」「だからいつなの爺ちやん死ぬのは」。

いろどりの過ぎたるを恥ぢ山紅葉

金澤　健

「多種の木の紅葉を言ひ山紅葉」「かえで紅葉はひとつの種類」。だけれどもこの句は取り合せ、「つまりあれこれ手を出しすぎた」。

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

■今月の秀逸句　（・・・七七をつけてみました）

菜虫つき葉っぱレースに仕上げたり　井野ひろみ
・・・レース編むのは菜虫にや敵わん

麻雀や夜食ラーメン容器積み　藤岡蒼樹
・・・灰皿もまた吸殻ばかり

鯛焼に尾鰭がついて売り切れる　西をさむ
・・・口コミと言ふ宣伝上手

お尻には蒙古斑あり早生みかん　山下正純
・・・中手にはない新鮮マーク

あそこもここも初期化をしたい神無月　高橋素子
・・・早くしないとあいつが戻る

焼栗の如爆ぜる日や古女房　壽命秀次
・・・毬栗もまた手痛い棘が

猫じゃらしじゃれ合うてゐる風日和　加藤　賢
・・・じやらす子居らず風がくすぐる

新入のたちまちなじみ鴨の群　山本　賜
・・・先輩などと威張る鴨なく

秋刀魚焼く前の秋刀魚の皮も焼き　久我正明
・・・几帳面なり後焼く御仁

木枯しも二号なればと目尻さげ　小杉　隆
・・・面倒をみた二号懐かし

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

正直に曲つて育ち大根かな　髙田敏男

・・・瘠せ土と言ふ貧乏に生れ

舟漕ぐは川より縁側小六月　高橋　都

・・・転覆をして溺れたりせず

野分後ぽかんと口をあける空　村上美和

・・・見上げる美和の口もぽかんと

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

■今月の滑稽句

【佳作】	疎まれつ世に憚って生身魂	青木輝子
	生身魂頑固で元気ケセラセラ	青木輝子
	DNA引き継ぎましたおけら鳴く	青木輝子
【佳作】	亀案ずよもやこの秋川工事	青山桂一
	岩あらば載りたる亀や空高し	青山桂一
	秋草や風を脇にす季の主	青山桂一
	水澄むや支持率・視聴率不透明	秋月裕子
	穂すすきの呼んでゐるよな拒否してるよな	秋月裕子
【佳作】	句作りの難儀爽やかすぎてかな	秋月裕子
	冬瓜や怪獣の雛孵化しさう	麻生やよひ
	豊の秋敵はタニタの体重計	麻生やよひ
【佳作】	おんぶばつたさながら二人乗りバイク	麻生やよひ
	雪女キュートな唇で迫る	足立淑子
	クリスマスソング荒野の真ん中で	足立淑子
【佳作】	いい顔をして締め括る十二月	足立淑子
	閑人もつられて急ぐ師走かな	有冨洋二
【佳作】	つぶやくにツイッター要らぬ日向ぼこ	有冨洋二
	マスクしてみんなどこかで見た顔に	有冨洋二
【佳作】	天高し埃払ひて万歩計	有吉堅二
	新走り喉の仏も踊り出す	有吉堅二
	土産にもならぬ団栗もてあまし	有吉堅二
	自分似と気づかず描く枯れ木かな	粟倉健二
【佳作】	暮れ近しお辞儀して買う宝くじ	粟倉健二
	口まげて眉書く寒い朝のバス	粟倉健二
	フルート吹けど心躍らず月冴ゆる	安藤淑子
	老人ホーム三食昼寝に紅葉映ゆ	安藤淑子
【佳作】	恍惚の御人の話夜の長し	安藤淑子
【佳作】	茶も酒もみんな立ち飲み神の留守	飯塚ひろし
	人の世は裏道ありて返り花	飯塚ひろし
	巫女の鈴取って欲しいと七五三	飯塚ひろし

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	観音さん立たせどっかり山眠る	井口夏子
【佳作】	休日の昨日も今日も炬燵の中	井口夏子
	不況の大波ばかり隙間風	井口夏子
【佳作】	風評の桃源郷は無人境	池田亮二
	青雲の音痴仲間よ寮歌祭	池田亮二
	師走イコール急げの公式しみつきて	石川節子
【佳作】	寒肥や糖質カットしない訳	石川節子
	俳句やさし俳句むつかし返り花	板倉肱泉
	本積んで本積み重ね夜長かな	板倉肱泉
【佳作】	まだ昼のこだわり胸に風邪の妻	板倉肱泉
【佳作】	言ひにくいことは留守電神の留守	伊地知寛
	ニュートンを知らぬが仏奴凧	伊地知寛
	今年またひとつ手抜きの年用意	伊地知寛
	憂国忌三島女郎衆の長化粧	伊藤浩睦
【佳作】	啄木鳥や突きまはしてなにもなし	伊藤浩睦
	夕照に案山子の被る鉄かぶと	伊藤浩睦
	参画は老人ばかり秋祭	稲沢進一
【佳作】	凧やアルミサッシの窓開けて	稲沢進一
	長き夜や夢を見ることもなく朝	稲沢進一
	百均の箒5年経落ち葉掃く	井野ひろみ
【佳作】	老い二人寄せ鍋つつく事に慣れ	井野ひろみ
	新藁の温みなり手にうつりける	今城夏枝
	蓑虫の糸長々し母逝ける	今城夏枝
【佳作】	冬陽浴び積ん読の本眠くなる	今城夏枝
	金切りの交じる合唱秋暑し	入江澄泉
【佳作】	つくつくし歌い尽くしの奉仕かな	入江澄泉
	石持や愚痴も聞かれず食われけり	入江澄泉
【佳作】	冬の日や何故金つばが季語でない	宇井偉郎
	本物の慶長小判大熊手	宇井偉郎
	寒やいと倶利伽羅竜王臍の上	宇井偉郎

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	秋晴れへ離陸して脚空し	宇佐美徹郎
【佳作】	釣橋の揺れに動けず紅葉狩	宇佐美徹郎
	鯊釣や手作りの竿によく懸る	宇佐美徹郎
	窓口に置眼鏡あり年の暮	氏家頼一
【佳作】	年用意夫婦それぞれ別の物	氏家頼一
	今年また自慢の出来の濁り酒	越前春生
【佳作】	叫ぶだけ叫んで帰る花野かな	越前春生
	実蓮華にいくつ眼あるや雨の暗	大関のどか
【佳作】	蟷螂の瞳に湖の青深し	大関のどか
	天水の中の金魚や月に住む	大関のどか
【佳作】	角切にバランス崩れスキップす	笠　政人
	沓下のまま寝に入る夜寒かな	笠　政人
	明月のしづくに洗ふ白内障	笠　政人
	業平寺の屏風絵紅葉の色映す	加藤澄子
【佳作】	土佐女おまけのみかん鷲掴み	加藤澄子
	立冬の風のすげなし人を恋ふ	加藤澄子
【佳作】	菊日和養命酒にもほろと酔ふ	加藤　賢
	居酒屋の提灯晴るる夕時雨	加藤　賢
【佳作】	台風は何時も日本を狙ってる	門屋　定
	秋の寺睨みが怖い仁王像	門屋　定
	長き夜の鳥の鳴き声遠くなり	門屋　定
【佳作】	身に入むや語らふ人の名を忘れ	金澤　健
	酒支度釣瓶落しと競ひ合ふ	金澤　健
【佳作】	輩はさっさと逝きぬ後の月	川島智子
	延えんと噂話や秋深し	川島智子
【佳作】	十三夜自殺は人にのみありぬ	川島智子
【佳作】	はっきりと大きな返事敬老日	久我正明
	蛇穴に入るつくづくと良き我が家	久我正明
	代官所跡地盗人萩さかる	工藤泰子
【佳作】	ぐらぐらの脚立に立てば柘榴笑む	工藤泰子
	吉四六や熟柿の下は惨状で	工藤泰子

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

【佳作】	白菜も雑草(くさ)も葉も入れ鍋奉行	黒田忠一
	霧と靄どちらも先が見へぬまま	黒田忠一
	松茸の少し入りたるちらしずし	小泉花子
	シャネル着た母の張り切る七・五・三	小泉花子
【佳作】	芋食めば薬は要らぬと医者の言	小泉花子
【佳作】	笑み交すぼけし夫婦の鍋うどん	小杉　隆
	生ごみの曜日承知の冬烏	小杉　隆
【佳作】	責任をとらされてゐる捨案山子	小林英昭
	産科医に西瓜のできを診てもらふ	小林英昭
	政治家は間もなく仕訳けされるはず	齋藤八兵衛
	酒美人温泉あっても進む過疎	齋藤八兵衛
【佳作】	賞味期限切れた同士の大恋愛	齋藤八兵衛
	水涸れてどじょうのたうつ野の田かな	酒井鹿洋
	やゝ寒や女の服装つつましく	酒井鹿洋
【佳作】	さばいわしやがてうろこや秋の雲	酒井鹿洋
	天霽れて新調の毛槍天を突く	佐野萬里子
【佳作】	時代祭戦国武将落馬して	佐野萬里子
	秋天に蓑笠被けて七郷落ち	佐野萬里子
	水打てば他山の石や苔の花	柴田止揚
	バッタ跳ぶ三日坊主が又走る	柴田止揚
【佳作】	ゆるふんでずり落ちそうな吊し柿	柴田止揚
【佳作】	泣かせたる舎弟より着く今年米	清水呑舟
	引退の盲導犬に小鳥来る	清水呑舟
	どぶろくを持ち寄り老の悪巧み	清水呑舟
	我と汝と枯れひびきあふ霜夜かな	下嶋四万歩
【佳作】	冬ざれて風化とまらぬ身となりぬ	下嶋四万歩
	リビングに炬燵を置いて中華鍋	下嶋四万歩
【佳作】	玉回しされ色気付く林檎かな	壽命秀次
	無花果のおちょぼ口して熟れにけり	壽命秀次
	駄々こねし子に逆らはず七五三	白井道義

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	へぼ将棋縁側に指す小春かな	白井道義
【佳作】	読み返す滑稽俳句文化の日	白井道義
	蜘蛛の巣をゆする蜘蛛　私の前で	鈴木和枝
【佳作】	蜘蛛　巧みに巣作り満月を乗せるため	鈴木和枝
	暗がりで作ったか誰のために蜘蛛の巣	鈴木和枝
	長き夜公式用語目を通す	鈴木哲也
【佳作】	星月夜犬の散歩はジャージ着る	鈴木哲也
	秋の暮練習不足苦笑	鈴木哲也
	渋柿や一人子には甘い顔	髙田敏男
【佳作】	堅物を骨抜きにして鰯雲	髙田敏男
	たこ焼きをホクホクと食む冬隣	高橋マキコ
	高架下たむろっている寒鴉	高橋マキコ
【佳作】	肩こりの痛み懐炉で押さえ込む	高橋マキコ
【佳作】	地代なき痔主生活去年今年	高橋　都
	咳の子が隣に座るせつなさよ	高橋　都
【佳作】	あなたなる思い出賀状の貴方かな	高橋素子
	自画自賛お捻りとなる花芙蓉	高橋素子
	冬の蚊や演奏前の音合せ	田中章子
	イケメンの赤きねんねこ銀座ゆく	田中章子
【佳作】	冬の雷猫のそはそは落ちつかず	田中章子
	虫の秋恩師に俳句やつてると	田中　勇
【佳作】	ランナーのトンネル抜ける花野かな	田中　勇
	秋燈の人影なるのおかまらし	田中　勇
【佳作】	恋かまきり吾が終焉を知るや否や	田中早苗
	コスモス田こすってみたい古ランプ	田中早苗
	イケメンにお釣り受け取る日焼の手	田中早苗
【佳作】	銀杏の火責めの刑に処されたる	田村米生
	釣瓶落し島を沈めてしまひけり	田村米生
	木枯よ海に出るなよ帰れぬぞ	田村米生
	日陰にて遠慮がちなり石蕗の花	津田このみ
	カレンダー丸をつけても何のこと	津田このみ

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

【佳作】	あと十年続くつもりで日記買う	津田このみ
【佳作】	口数のめっきり減って冬に入る	蔦恵
	七五三阿吽の獅子に迎へらる	蔦恵
	秋風や今日はあしたの過去となる	蔦恵
	一里から九十九里まで秋の雨	飛田正勝
	子も親も住めぬフクシマ里の秋	飛田正勝
【佳作】	夫よりも妻に親しき秋蚊打つ	飛田正勝
	寄鍋を独りつつくも余生かな	永島董玉
	狐火を頼りつつ読む懸想文	永島董玉
【佳作】	四つめの嚏怺へに怺へゐて	永島董玉
【佳作】	鯛焼の焼かれ腸煮え返る	西をさむ
	鯛焼の真半分の在り所	西をさむ
	秋の蝿わがちゃんぽんへ突入す	原田　曄
【佳作】	かめ洗ふ亀の子束子秋の昼	原田　曄
	全身をユニクロにして秋の街	原田　曄
【佳作】	碁敵も句敵も友蛇穴に	ひがし愛
	新米へ米搗きバッタ来たりけり	ひがし愛
	杜鵑草咲かねば括るほかは無し	ひがし愛
【佳作】	痕跡を残さず消へし曼珠沙華	彦阪義久
	いたぶるは木枯し一号木の葉髪	彦阪義久
	七五三カメラの取り説探しをり	彦阪義久
	念仏の届いてをりぬ木守柿	久松久子
【佳作】	懐炉貼りカチカチ山の婆狸	久松久子
	熊穴に入り稜線なだらかに	久松久子
	ちよつぴりの松茸なれど松茸飯	日根野聖子
【佳作】	湯気のあるものみな馳走冬近し	日根野聖子
	急ぎ足となることもまた冬支度	日根野聖子
	老いも亦楽しからずや葛湯吹く	広瀬雅幸
	鯛焼きのリアルなるかなその重さ	広瀬雅幸
【佳作】	自己流の処方箋なる薬喰	広瀬雅幸
【佳作】	枯蟷螂積まれる薪なか潜る	藤岡蒼樹

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	立冬の上衣やあらは膝小僧	藤岡蒼樹
	物忘れ桜紅葉の頃にまた	藤森荘吉
【佳作】	長き夜や作り話を考へる	藤森荘吉
	夜ぞ長し日曜夜の風呂掃除	藤森荘吉
	拾うたび笑顔となれり蔦紅葉	藤原セツ子
	遠き日のなんなん棗や実を拾う	藤原セツ子
【佳作】	無花果の何の不満か口開かず	藤原セツ子
	暫し待て柿の色まだカーキ色	前　九疑
	耳奥にミミズ鳴かせて冬に入る	前　九疑
【佳作】	鐘の音響けば急ぎ柿をむく	前　九疑
【佳作】	友を招ぶ栗ごはん用栗拾ふ	松井寿子
	半跏像は伏し目がちなり萩の花	松井寿子
	鮮やかさ競ひ奥山の紅葉	松井寿子
	目をまわし夏も逃げ去る野分かな	松尾軍治
【佳作】	孫どもに風呂ことわられ冬隣	松尾軍治
	夜食とり仕事おさらふ盗人かな	松尾軍治
【佳作】	秋晴を持て余したる馬齢かな	丸山紘一
	風評の新米でよし老いの膳	丸山紘一
	女子会に隣りて沈む忘年会	丸山紘一
	具をそろえ昭和を懐古薩摩汁	三塚不二
【佳作】	磨崖仏袈裟懸け錦蔦紅葉	三塚不二
	とんぼ舞ふ原に一礼竹刀ふる	三橋百笑
	木犀の香をかき分けて一輪車	三橋百笑
【佳作】	ほうき雲掃き目おおらか秋の空	三橋百笑
【佳作】	枝ぶりのよき松橋と蜘蛛の糸	宮森　輝
	わすれ傘俄時雨に拝借し	宮森　輝
	寒き朝ふて寝決めこむ独り者	宮森　輝
	大花野力いっぱい深呼吸	村上美和
【佳作】	巻き上げのピシと決まらぬ秋簾	村上美和
	秋灯下銀河鉄道発進す	百千草
【佳作】	玉手箱開けば木の実クラス会	百千草

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	人もよし我もよしとや赤い羽根	百千草
【佳作】	点火よし埃の臭うストーブよ	森岡香代子
	我が家にてホームシックの良夜かな	森岡香代子
	思惑のスタイル願ふ剪定は	森岡香代子
【佳作】	秋うらら老化帽子を忘れ来る	森　要
	あぜ道で転びコスモス笑いおる	森　要
	年金で寒さ知らずの財布かな	森　要
	紅葉せず且つ散りもせず冬に入る	八木　健
	漁火を滲ませてゐる別れかな	八木　健
【佳作】	蒸かし芋手に夜更かしの秋深し	八木　健
【佳作】	鰯雲尾頭くづれ弱弱し	八洲忙閑
	表道それて裏道曼珠沙華	八洲忙閑
	からすうり懸想の文にうり二つ	八洲忙閑
	文化の日三日坊主も初心なり	柳　紅生
【佳作】	善人でゐる疲れ出て大マスク	柳　紅生
【佳作】	今日もまた猫に観察されし秋	柳澤京子
	癒し猫血圧安定天高し	柳澤京子
	「眠いよ！」と両手ひっかく秋夜長	柳澤京子
	岡つ引き提灯小僧秋祭り	山下正純
【佳作】	血染めして悪童増やす石榴かな	山下正純
【佳作】	禁煙の息子イライラ菊日和	山本けい子
	秋祭夫の神輿上りけり	山本けい子
	吸殻の拾ひきれない祭後	山本けい子
	月見酒石山寺を訪ふたこと	山本　賜
【佳作】	低音の藤本義一秋に逝く	山本　賜
	冬至南瓜穴あけられてランタンに	横山喜三郎
	茸狩あげくに誰も口つけず	横山喜三郎
【佳作】	秋の蚊の血税のごと付き纏ふ	横山喜三郎
	願ひ事しに来ても無駄神の留守	渡辺さだを
	湯に在れば余生もたのし残る蟲	渡辺さだを
【佳作】	レンタルのべべの見栄はる七五三	渡辺さだを

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。